「感動の場―点」でどうだろう、点がたくさん集まり、まとまる、それが美術館ということかな　（小川原 脩）

「感動の場―点」は、1998年の美術館着工を機に始まった、倶知安町広報誌で小川原脩作品を紹介するコラムのタイトルで、小川原自身が名付けたものです。本人から美術館の学芸員へと執筆者が変わり、現在は連載を開始して25年、掲載回数は300回を越えました。

時流に翻弄されつつも、「豊かな自閉」と呼称し地方から社会を注視した画家・小川原脩。飽くなき探究心を貫いた創作姿勢を映す作品の数々を、「感動の場―点」で綴られた紹介文とともにご覧いただきます。

納屋　1933年

植物園　1937年

婦人像　1942年

馬　1963年

ある晴れた日に　1971年

チベット讃歌　1982年

九官鳥の風景　1994年

◉同時開催

小川原脩展「小川原脩と麓彩会」
開催中～2024年2月12日（月・祝）

〈おしゃべり美術館2024〉対話鑑賞のススメ
2024年2月17日（土）～4月14日（日）

◉会期中のイベント　詳しくはチラシ・HPをご覧ください。

一時間のクラシック
朗読劇『イノック・アーデン』
～語り手とピアノのための
2024年1月27日（土）14:00～15:00
出演：則竹正人さん（朗読・バリトン）、大家純子さん（ピアノ）
入場無料・予約不要・当日先着50席

アンサンブル・クレセント
「弦楽四重奏 名曲コンサート」
2024年2月18日（日）14:00～15:00
出演／アンサンブル・クレセント
森本千絵さん（ヴァイオリン）、森由紀子さん（ヴァイオリン）、
猿渡美穂子さん（ヴィオラ）、山田慶一さん（チェロ）
入場無料・予約不要・当日先着50席

小川原脩
1911-2002

北海道・倶知安町生まれ。旧制中学（現・倶知安高校）で油彩を始める。東京美術学校（現・東京藝術大学）西洋画科に入学。在学中に「納屋」（1933年）が帝展に入選。卒業後、福沢一郎らと出会い「エコール・ド・東京」「創紀美術協会」「美術文化協会」などの結成に参加。シュルレアリスム絵画への道を歩んだが、軍の規制が厳しくなり断念。その後、軍の命令により戦争記録画を制作。

戦後は郷里・倶知安に戻り、岩船修三、木田金次郎らと「全道美術協会（全道展）」の創立に参加。1958年、野本醇、因藤壽、穂井田日出麿らと「麓彩会」を創立。1975年、北海道文化賞受賞。1994年、北海道開発功労賞受賞。この年、小川原脩画集（共同文化社）を出版。

戦後、倶知安町に定住してから半世紀以上、新たな造形の可能性を求め続けたが、とりわけ70歳を目前にして訪れた中国、チベット、インドでの体験を契機として創作の新境地を拓いている。

小川原脩記念美術館
Shu Ogawara Museum of Art
〒044-0006　北海道虻田郡倶知安町北6条東7丁目1（0136-21-4141）
http://www.town.kutchan.hokkaido.jp/culture-sports/ogawara-museum/